

新潟市西海岸公園のシダ植物

登坂 裕一

2007年10月28日、新潟市西海岸公園のクロマツ・ニセアカシア林でカニクサを見つけた。

元来砂丘の防砂の役割だけだった林なので林下にシダはほとんどなかったが、公園化により環境が大きく変化したので出現したと考えられる。近年植生の変化が著しいので、ここにカニクサを含めたシダの生育状況の記録を報告する。

(1) 観察されたシダの生育状況

当地は、現在のように公園として整備する前は、砂丘にクロマツとニセアカシアが植えられ、林下は砂地だけでコバンソウが群生し、シダは羽片1枚のイワガネソウの他は見ることがなかった。公園として常緑樹を植え、遊歩道をつけるなど大規模に整備した後は、常緑樹が見る間に増えて、林内が暗く、やや湿った環境に変わった。常緑樹としてはシロダモ、タブノキ、アオキ、ヤツデ、マサキ、モッコク、マルバシャリンバイ、トベラ、ネズミモチ、ヒイラギナンテン、カクレミノ、シュロなど、落葉樹ではエノキ、ヤマグワ、タラノキ、アカメガシワ、ヒヨウタンボクなど、下草にヤブラン、オモト、ヤブコウジ、ジャノヒゲなど、多種多様な植物が生えている。観察されたシダを整理し、下表に示した。

表 西海岸公園で観察されたシダ

種名	1981	2005	2007	調査時の観察個体の状況、個体数
イワガネソウ	○			羽片1枚の1個体のみ
リョウメンシダ		○		胞子嚢持たない小さな個体少数
ホソバシケシダ		○		胞子嚢持つもの有。少ない
トラノオシダ		○	○	胞子嚢持つもの有。少ない
オニヤブソテツ		○	○	大きな個体で胞子嚢持つ。
ベニシダ		○	○	少ない大きな個体で胞子嚢持つ。多い
トウゴクシダ		○	○	大きな個体で胞子嚢持つ。少ない
オクマワラビ		○	○	大きな個体で胞子嚢持つ。多い
ホソバナライシダ		○	○	大きな個体で胞子嚢持つ。少ない
シケシダ		○	○	胞子嚢持つもの有。少ない
イヌワラビ		○	○	胞子嚢持つもの有。やや多い
ヘビノネゴザ			○	胞子嚢持たない小さな1個体のみ
カニクサ			○	胞子嚢持たない。1個体?

公園整備で、多数の作業員が草刈機械を利用して激しく下草刈りしたり、遊歩道沿いの草をきれいにむしり取るので、観察されるシダのほとんどは小さな個体で、大きくなる前に刈り取られてしまう。

関屋分水路以西、新潟市五十嵐付近までの海岸林内に、ヤマヤブソテツ、サカゲイノデ、イノデ、ワラビなども見たが、西海岸公園内では今のところ、これらは見られない。

(2) カニクサ *Lygodium japonicum* (Thunb.) Sw.

2007年10月28日、クロマツ・ニセアカシア林の下、ハマヒサカキの植え込みのところにカニクサを見つけた。約50cmに伸びた1葉と地面を這っている小さな数葉があり、孢子葉はなかった。2005年5月1日にも同所を丁寧に調べているが、カニクサの孢子体を見なかったので、ここ1、2年の間に伸びだしたものであろう。発見した日と翌29日に関屋松波町3丁目からマリンピア日本海付近までの林内の遊歩道をくまなく歩いたが、カニクサはここにしかなかった。生えている様子から植えたものではないと判断されるが、公園の整備で草刈がなされる中、よく生き残っていたと思う。同年12月22日に再び訪れたときは、上部の羽片が枯死していた。



カニクサの生育地 (2007.10.29)



カニクサの生育 (2007.10.29)

カニクサは日本から台湾、中国、東南アジア、インド、オーストラリアまで分布する暖地性シダ。夏緑性だが、暖地ではしばしば常緑とされる。日本のシダ植物図鑑第4巻(1984)によれば、日本の北限は石川県内浦町上市瀬、太平洋側の北限はいわき市平窪であり、新潟県内では近年、上越市柿崎区で発見されている。

現在のところ、当地点が国内最北の分布地になるが、いずれ草刈がなされ消滅するものと思われる。ここでは国内自生の北限の決定は留保し、今後の推移に注意していきたい。

分布地データ

カニクサ *Lygodium japonicum* (Thunb.) Sw.

新潟市中央区関屋松波町2丁目西海岸公園15m : TY-31340 (2007.10.29)

[五万分の一地形図 新潟391376-12, 環境省3次メッシュ 5639-60-92]

県内極希産。

[文献]

倉田悟・中池敏之(1984)日本のシダ植物図鑑第4巻:112, 東京大学出版会